



ABEST21 e-News

No.102, January-February 2019

ABEST21

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,
a 21st century organization

URL: <http://www.abest21.org> TEL. 03-3498-6220 E-Mail: ABEST21@abest21.org
Editor: Fumio Itoh

ABEST21 Office Report

=====
2019

January

- 16th: Seminar I at Naresuan University-Bangkok, Bangkok, Thailand
- 18th -19th: Peer Review Visit for FEB-Universitas Hasanuddin, Makassar, Indonesia
- 21st: Seminar I at FEB-Universitas Airlangga, Surabaya, Indonesia
- 23rd: Seminar I at Management & Science University, Shah Alam, Malaysia

February

- 05th: Seminar I for Waseda Business School, Waseda University at IVY Hall, Tokyo, Japan
- 07th: Seminar I at Graduate School of Management, Kyoto University, Kyoto, Japan

I. Quality Improvement and Peer Review System – No. 37

「自己点検・評価 (Self-Check/Self-Evaluation)」の分析について

激しい環境の変化において、大学が教育研究の質維持向上を不断に図っていくためには、大学は卒業生が実社会において教育課程で身に付けた専門的知識・スキル等の力量を学修した通りに発揮されることを期待して、大学の教育機能のより一層の充実強化に取り組んでいかなければならない。そのためには大学は常に大学教育研究機能の実施状況を自ら点検・評価し、その改善に努力していかなければならない。

このことは、「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(平成10年10月大学審議会答申)において、「・・・各大学が自らの教育研究水準の一層の向上を図るために、自らの教育研究活動の点検・評価を行う「自己点検・評価」にある。・・・」と明示している。自己点検・評価は大学の教育研究活動の質維持向上の基本であり、それ故に学校教育法第百九条(自己点検・評価及び認証評価制度)において、「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と規定している。そして、その自己点検・評価の結果の客観性と透明性を確保していくために、その評価を第三者評価に求めている。

第三者評価が機能しうるためには、その前提として次の条件が整備されていなければならない。その第一は、大学が自己点検・評価を的確に行うことができるようにするために、自己点検・評価の分析に関するマニュアルが作成されていなければならない。第二は、自己点検・評価の実質的な責任者である学部長を対象に自己点検・評価の視点等についてのセミナーの開催が必要である。第

三は、それに基づいて実際に自己点検・評価の分析を担当する教職員を対象としたセミナーの開催が不可欠となる。そして、第四に、大学が実施した「自己点検・評価」を第三者評価するマニュアルが用意され、それに基づいて評価員の研修セミナーが開催される。こうした実施体制が整備されて初めて第三者評価が可能となる。

しかし、実際に大学より提出された自己点検・評価報告にはいろいろな問題が内在している。その第一は、分析者に自己点検・評価の目的が明確に理解されていない場合である。何のために自己点検・評価を行うのかが分析者に分かっていないことである。従って、その自己点検は総論的で具体的な分析はなされず、自己評価においても改善の課題が抽出できない。

第二は、評価項目について自己点検をする専門的知識が欠如している場合である。その結果、分析に利用されるデータの適切性に欠け、異質のデータが提示されてくる。それは専門性に欠けた分析者が作業に係わった場合に起こってくる。

第三は、具体的な事実に基づかないで自己点検・評価が行われる場合である。従って自己点検の分析は抽象的で、その自己評価にも内容がなく、ただ事務处理的な分析に終始している結果である。

第四は、データの不足とデータの整合性の問題である。特に、教員数や学生数のデータが評価項目の自己点検毎に異なっている場合である。それは自己点検が分担されて行われている場合で、タスクチームが一貫してすべての評価項目について自己点検を行っていない場合にこうした傾向がみられる。

第五は、評価項目についての自己点検・評価の分析に一貫性がない場合である。大学の教育活動は学生を受入れ社会に有為な人材を輩出していくオープン・システムである。それ故、「教育研究上の目的」において育成すべき人材像を明確に描き、「学修目標」において教育課程で身に付けさせるべき力量を明示し、そして実社会で学生が如何に教育課程で身に付けた力量を発揮しているかの「学修成果」の把握していく連環システムを構築してこないと大学の教育の質の改善に連動してこない。こうした連関した自己点検・評価が行われてこないと、問題が分散して環境の変化に対応した「未来の大学のあるべき姿」に導く改善軌道に乗れなくなってしまう。

そして、最後は認証評価を申請した当該学部長が分析の責任者として実施された自己点検・評価の分析に目を通していない場合である。これでは問題の本質を理解し改善に対する組織的な対応は不可能である。実地審査 (Peer Review Visit)において、学部長が自己点検・評価に不整合なまた異なったデータの使用を指摘されて狼狽している場合がみられる。

以上の諸問題は、教育活動の改善を目指した自己点検・評価ではなく、「認証評価」を得ることにだけに執着した場合に見られる傾向である。自己点検・評価の分析を事実に基づいて極め細かく分析していかないと教育の質改善課題は見つからない。

ABEST21 では、大学が実施する自己点検・評価の第三者評価の視点を明確にし、下記の対応をしている。

1) 評価基準について自己点検・評価をする目的を明確にしている。そのために基準の単純化に努め、26 の評価基準に 142 の細目視点を設けている。これは複数の複雑な目的を一つの基準にまた細目視点に押し込めていくと、自己点検・評価の分析が複雑化し、求める分析の本質を見失いがちとなる。それ故、単純明快な評価基準が必要なのである。難解な評価基準は問題を複雑化するだけであって、実質的な教育の維持向上のための改善を難しくしてくる。

2) 142 の細目視点での自己点検・評価の分析では、当然重複した分析が出てくる。そのために、基準及び評価項目ごとに同類項の改善課題の整理統合を図りより大きな根本的な課題に整理し、課題改善の緊急性と重要性に従って課題解決の優先順位を決めていくことを求めている。そして、課題解決の実効性を求めて改善課題を解決していく実行計画の履行状況を「実行計画履行状況報告」

として年度ごとに報告してもらっている。

こうしたプロセスを実行可能なものとしていくためには、「自己点検・評価は何のために行うのか」の目的を十分に理解してもらうことが必要であり、この認証評価を受ければ大学の格挙がる考えての自己点検・評価では、教育の質改善は期待できない。経済・社会・文化のグローバル化の進展が加速していく時代において、大学が明日の大学を創り出していくためには、大学が形式的な自己点検・評価に終始するのではなく、実質的な自己点検・評価の分析に転換していくのでなければならない。(理事長 伊藤文雄)

II. Global Knowledge Network

1. 2019年度年次総会等の開催について

2019年3月6日～8日、品川のShinagawa Season Terraceで、下記の日程で2019年度の年次総会等を開催します。

- 1) 3月6日(水)、Peer Review Committee
- 2) 3月7日(木)、Accreditation Committee, 法人理事会、総会、懇親会
- 3) 3月8日(金)、東芝機械株式会社(TOSHIBA MACHINE CO., LTD.)訪問

2. マネジメント人材育成協議会(The Council for Nurturing Global Management Professionals) の設置について

ABEST21の人材育成協議会は、2009年10月28日、東京商工会議所会議室で設立総会が開催され、わが国のビジネススクールの教育の振興を産学連携で検討していくために、わが国を代表するビジネススクール9校、企業9社そして認証評価機関の3グループから構成される「マネジメント人材育成協議会」が設立されました。人材育成協議会は、これまで34回の協議会の開催を重ね、その結果の報告書を社会に公表してきました。

第一次報告(2010年10月)「経営専門職大学院制度の在り方について」

第二次報告(2012年10月)「マネジメント人材の力量について」

第三次報告(2017年3月)「産学連携の在り方について」

本協議会は、これまでの協議会活動の経験知に基づき、Bangkok, Kuala Lumpur 及び Bandung に同様の協議会を設置し、各地区協議会との連携によりアジアの持続的経済発展に資するマネジメント力に優れたマネジメント人材の育成を産学連携で推進していくことにいたしました。昨年11月にインドネシア・バンドン工科大学

(Institut Teknologi Bandung) で開催されました The ABEST21 Rectors and Deans Forum において設立趣旨に賛同された協議会設立パートナーシップ協定の署名に基づき、来る3月7日の理事会及び総会において協議会規則(案)の承認を得て協議会活動を開始したいと考えています。



"The Council for Human Resource Development" Partnership

ABEST21
"The Council for Human Resource Development" Partnership

We, the members of the ABEST21, have reached a significant exchange of views and opinions at a meeting to establish The Council for Human Resource Development. We believe that these are very important issues that will require our common and concerted actions. We agreed to establish the Council in the best interests of society. We will continue to work for the advancement of education on a global scale by exchanging our daily benefits, collaboration among member institutions.

We therefore have come to the conclusion that we shall use our best efforts to establish the ABEST21 Council for Human Resource Development in Singapore, Japan, Malaysia and Thailand, based on good friendship and respect. Specific details are described in the following areas of activities:

1. Actively assist the members on their educational and research activities, and encourage them to contribute their activities to the level of global recognition.
2. Exchange information on curricula and teaching methods.
3. Strengthening of academic programs and courses and operations symposium.
4. Collaboration with activities in human resource development.

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
ASEST21	Fuminobu Takai	2016.03.07
SBM-JTB	Sudhakar Narayan	2016.03.07
MSU	Abdul Wahid	2016.03.07
UIN Ar-Raniry	Abdul Wahid	2016.03.07
FEB UMSU	Abdul Wahid	2016.03.07

ABEST21
"The Inter-University Exchange Program" Partnership (continued)

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
Universita Sains Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Kebangsaan Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Teknologi Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Sains Islam Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Pendidikan Sultan Ismail	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Teknikal Malaysia Melaka	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Perlis	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Terengganu	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Pahang	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sarawak	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sabah	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Kelantan	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Perlis	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Terengganu	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Pahang	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sarawak	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sabah	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Kelantan	Abdul Wahid	2016.03.07

ABEST21
"The Council for Human Resource Development" Partnership (continued)

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
Andalus University	Syafiqul	2016.03.07
Egypth University	Yoshimasa Hara	2016.03.07
Putra Business School	Zaini	2016.03.07
Universitas Padjadjaran	Taufiq	2016.03.07

3. 大学間学術交流プログラム(The Inter-University Exchange Program)の推進について

3月7日の総会の後の講演会では、昨年11月のバンドン会議での「大学間学術交流プログラム(The Inter-University Exchange Program)の推進につて」の討議を踏まえ、文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室室長補佐進藤和澄氏 (Director, Office for International Planning, Higher Education Bureau, MEXT)を招き、2016年5月の第3回 ASEAN+3 教育大臣会合では、ワーキンググループ会合でとりまとめた「学生交流と流動性に関するガイドライン」について、特に単位互換制度の推進のガイドラインについて講演していただくことにしました。



"The Inter-University Exchange Program" Partnership

ABEST21
"The Inter-University Exchange Program" Partnership

We, the members of the ABEST21, have reached a significant exchange of views and opinions at a meeting to establish The Council for Human Resource Development. We believe that these are very important issues that will require our common and concerted actions. We agreed to establish the Council in the best interests of society. We will continue to work for the advancement of education on a global scale by exchanging our daily benefits, collaboration among member institutions.

We therefore have come to the conclusion that we shall use our best efforts to encourage the faculty, students and staff members of our member institutions and to use a framework as important as The Council for Human Resource Development. Specific details are described in the following areas of activities:

1. Encourage the members to actively assist the members on their educational and research activities, and encourage them to contribute their activities to the level of global recognition.
2. Exchange information on curricula and teaching methods.
3. Strengthening of academic programs and courses and operations symposium.
4. Collaboration with activities in human resource development.

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
ASEST21	Fuminobu Takai	2016.03.07
SBM-JTB	Sudhakar Narayan	2016.03.07
MSU	Abdul Wahid	2016.03.07
UIN Ar-Raniry	Abdul Wahid	2016.03.07
FEB UMSU	Abdul Wahid	2016.03.07

ABEST21
"The Council for Human Resource Development" Partnership (continued)

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
Universita Sains Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Kebangsaan Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Teknologi Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Sains Islam Malaysia	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Pendidikan Sultan Ismail	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Teknikal Malaysia Melaka	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Perlis	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Terengganu	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Pahang	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sarawak	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Sabah	Abdul Wahid	2016.03.07
Universiti Malaysia Kelantan	Abdul Wahid	2016.03.07

ABEST21
"The Inter-University Exchange Program" Partnership (continued)

Inst. Name	Printed Name and Signature	Date
Andalus University	Syafiqul	2016.03.07
Egypth University	Yoshimasa Hara	2016.03.07
Putra Business School	Zaini	2016.03.07
Universitas Padjadjaran	Taufiq	2016.03.07

4. “Humanizing the School’s Management Education”の講演と Joint Research Project の推進について

3月7日開催の講演会においては、ABEST21 認証評価の評価項目である“Humanizing the School’s Management Education”について、“Globalizing the School’ Management Education”との関連で下記の講師による講演会が開催されます。Peer Review Visit において、マネジメント教育のグローバル化に対応したマネジメント人材の育成における“Humanizing the School’s Management Education”の重要性について質疑されてきています。また、それに伴う教材作成の必要性についても議論されてきています。この度、Accreditation Seminar における議論を踏まえ、マネジメント人材育成における“Humanizing the School’s Management Education”の問題と Joint Research Project: “Humanizing the School’s Management Education”について話していただくことにしました。

- ・ Prof. Dr. AAhad Osman-Gani
Dean, International Islamic University Malaysia, Malaysia

III. Accreditation

ABEST21 Accreditation SeminarI の開催について

2019 年度に Quality Improvement Plan, Self-Check/Sif-Evaluation Report 及び KAIZEN Report の提出を予定している受審校に対して、Bangkok, Surabaya, Kuala Lumpur そして東京において、それぞれ Accreditation Seminar I を開催しました。

1) Bangkok Seminar I

Date: Wednesday 16, 2019: 13:00-15:30

Venue: Faculty of Business, Economics and Communications, Naresuan University

NU-BKK at 12 floor of the President Tower, 973 Plen-Chit Road, Prathomwan Bangkok, 10330

- ・ Chair: Dr. Vichayanan Rattanawiboonsom (Dean, Naresuan University, Thailand)
- ・ Session One: The ABEST21 Accreditation System
Speaker: Professor Emeritus Dr. Fumio Itoh, President, ABEST21
- ・ Session Two: The Quality Improvement Plan (QIP)
Speaker: Dean Dr. Rapeeporn Srijumpa (Burapha University, Thailand)
- ・ Session Three: The Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR)
Speaker: Dr. Danaipong Chetchotsak (Khon Kaen University, Thailand)
- ・ Session Four: The KAIZEN Report (KR)
Speaker: Prof. Emeritus, Dr. Fumio Itoh, President, ABEST21

Dr. Danaipong Chetchotsak

College of Graduate Study in Management, Khon Kaen University, Thailand

The ABEST21 Accreditation Seminar I 2019 in Bangkok was held on January 16, 2019 at Bangkok office of Naresuan University, Thailand. The objective of this seminar is to help ABEST21 members in Thailand to prepare for Accreditation as well as to provide an in- depth comprehension of ABEST21 Accreditation Processes which included preparation for Quality Improvement Plan (QIP), Self-check/Self-evaluation Report (SCR), and Kaizen Report (KR).



In this seminar, Prof. Emeritus Fumio Itoh, ABEST21 President, gave a speech on The ABEST21 Accreditation System and Kaizen Report, along with two guest speakers, Dr. Rapeeporn Srijumpa, Dean of Graduate School of Commerce, Burapha University and Dr. Danaipong Chetchotsak from Khon Kaen University who gave a talk on QIP and SCR, respectively. In this event, Dr. Vichayanan Rattanawiboonsom, Dean of Faculty of Business, Economics and Communications, Naresuan University served as a chair person along with about twenty participants from Naresuan University, Burapha University, Khon Kaen University, and Mahasarakham University joining the seminar.



Here, Prof. Itoh provided a general view of ABEST21 Accreditation Process and emphasized that ABEST21 Accreditation is all about the future of schools while the past performance is not quite important. That is why QIP, SCR, and KR are imperative for ABEST21. Then Dr. Rapeeporn mentioned that in order to prepare for QIP, the schools should describe the goal and future of the schools along with their analysis on strengths, weaknesses, opportunities, and threats. Then strategies as well as quality improvement plans can be developed to describe their course of action to portray the path towards the future. To prepare for SCR, Dr. Danaipong stated that the schools also need to analyze their situations with respect to 26 ABEST21 standards and 142 criteria and then provide an improvement plan for a particular issue (issues to be improved) which help the schools to reach their goal while complying with ABEST21 standards. Last but not least, Prof. Itoh gave a presentation on KR and mentioned that the schools should prepare a KR report on how the schools perform according to their own plans mentioned in SCR through PDCA cycles. The KR report is to be given on the third year after being accredited.

2) Surabaya Seminar I

Date: Monday, January 21, 2019: 13:00-15:30

Venue: Faculty of Economics and Business, Universitas Airlangga, Surabaya

Jl. Airlangga 4-6 Surabaya, East Java, Indonesia

- Chair: Dr. Sri Gunawan (Universitas Airlangga, Indonesia)
- Session One: The ABEST21 Accreditation System
Speaker: Prof. Emeritus, Dr. Fumio Itoh, President, ABEST21
- Session Two: The Quality Improvement Plan (QIP)
Speaker: Prof. Dr. Candra Fajri Ananda (Universitas Brawijaya, Indonesia)
- Session Three: The Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR)
Speaker: Dr. Sri Gunawan (Universitas Airlangga, Indonesia)
- Session Four: The KAIZEN Report (KR)

Dr. Yasmine Nastion

Faculty of Economics and Business, Universitas Indonesia, Indonesia

Speaker: Dean Prof. Dr. Sudarso Kaderi Wiryono (Institut Teknologi Bandung, Indonesia)

On January 21, 2019 ABEST21 International conducted The Accreditation Seminar I at Universitas Airlangga in Indonesia. The main purpose of this seminar is to prepared the Schools before they submit the Quality Improvement Plan (QIP) and Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR). There were four sessions that cover the topic of The ABEST21 Accreditation System, The Quality Improvement Plan (QIP), The Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR) and The Kaizen Report (KR).

The speakers in that seminar were Prof. Emeritus, Dr. Fumio Itoh from ABEST21, Mentor Prof. Dr. Candra Fajri Ananda from Universitas Brawijaya, Indonesia; Mentor Dr. Sri Gunawan from Universitas Airlangga, Indonesia; and Mentor Prof. Dr. Sudarso Kaderi Wiryono from School of Business and Management, Institut Teknologi Bandung, Indonesia.

Speakers from Universities in Indonesia provided some guideline and share their experience regarding the QIP report, SCR and The Kaizen report. In those reports, one important matter that need to be noted is how the School could show the linkage between vision, mission and learning goals. And there should be a combination of educational programs, students, faculty & staff, and infrastructure in order to achieve the mission.

Another issue that should be explained by The School is humanizing aspect. The School not only providing programs or activities that must be done according to regulation or minimum requirement, but also other programs that can be done to improve the school's innovation and performance. To go beyond minimum requirement and differentiate the School, each schools should find their uniqueness and develop strategy based on that.

After the School receive accreditation, they should submit the kaizen report. The spirit of ABEST is kaizen, continuous improvement every day to make better program. That is why it is important for the School to show every progress, no matter how small, that has been achieved after they get accredited. By conducting gap analysis, the kaizen issues can be found and The School can prepare the action plan to solve the issue.



3) Kuala Lumpur Seminar I

Date: Wednesday, January 23, 2019: 12:30-15:45

Venue: Post-Graduate Centre, KL, Management and Science University

Level 15, Management Tower, University Drive, Off Jalan Persiaran Olahraga, Seksyen 13, 40100 Shah Alam, Selangor, Malaysia

- Chair: Prof. Dr. Ali Khatibi (Dean, Management and Science University, Malaysia)
- Session One: The ABEST21 Accreditation System
Speaker: Professor Emeritus, Dr. Fumio Itoh (President, ABEST21)
- Session Two: The Quality Improvement Plan (QIP)
Speaker: Dr. Siti Zaleha Sahak (Universiti Teknologi MARA, Malaysia)
- Session Three: The Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR)
Speaker: Dr. Hen Kai Wah (Universiti Tunku Abdul Rahman, Malaysia)
- Session Four: The KAIZEN Report (KR)
Speaker: Prof. Emeritus, Dr. Fumio Itoh (President, ABEST21)

Dr. Siti Zaleha Sahak

Arshad Ayub Graduate Business School, Universiti Teknologi MARA, Malaysia

On Wednesday, January 23, 2019, Kuala Lumpur Seminar 1 was held at the Management and Science University (MSU), Shah Alam. The seminar was chaired by Professor Dr. Ali Khatibi, Dean of Graduate School of Management, MSU and the total number of participants was 19. This seminar aimed to assist the Schools which are working towards applying for the ABEST21 initial accreditation and re-accreditation. Thus, the seminar was focused on three key agendas namely, the ABEST21 Accreditation System, the Quality Improvement Plan (QIP) and the Self-Check Report (SCR). Professor Emeritus, Dr. Fumio Itoh gave a talk on the ABEST21 Accreditation System and Process. Professor Itoh highlighted the roles of accreditation in assuring the quality improvement of management education in meeting the stakeholders' expectations, especially the students of the School. The Schools must develop a clear mission statement and the strategies in humanizing and globalizing their management education. Professor Itoh has also shared that ABEST21 plans to organize three (3) seminars for year 2019 to further facilitate the Schools in preparing for and going through the accreditation process. Next, the explanation on the QIP, its roles, content and format were delivered by Dr. Siti Zaleha Sahak of Arshad Ayub Graduate Business School, Universiti Teknologi MARA (UiTM). The QIP works as a base to form the framework of SCR. A talk on SCR was delivered by Dr. Hen Kai Wah of University of Tun Abdul Razak (UTAR). Dr. Hen explained the roles, the objectives and the content of SCR. The participants were also exposed to the process of peer review visit and its roles in ABEST21 Accreditation System. The session was followed by Q&A. For closing, Professor Ali shared his view on ABEST21 Accreditation process and encourages more Schools to apply for ABEST21 Accreditation for quality improvement of management education.



4) Tokyo Seminar I

2019年2月5日(火)14:00-15:30、東京青山のIVY Hallで2019年に受審される専門職大学院を対象に、「認証評価セミナー」が開催されました。SBI 大学院大学重田孝夫教授と ABEST21 伊藤理事長とにより、ABEST21 Accreditation Manual 2019 に基づき“Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR)”の分析視点等について詳細な説明がなされ、質疑応答が行われました。さらに、2019年2月7日(火)15:00-17:30、京都大学経営管理大学院で浅田孝幸立命館大学特任教授と ABEST21 伊藤理事長とにより、Re-accreditationについて ABEST21 Accreditation Manual 2019 にもとづき詳細な説明がなされ、質疑応答が行われました。

IV. Membership

=====

1. 新会員の紹介

2018 年度に下記の学校会員等の入会がありました。新会員校及び会員代表者は次号において紹介いたします。

- 1) Postgraduate School, Universitas Airlangga (PASCA), Surabaya, Indonesia
- 2) Faculty of Economics, Universitas Islam Sultan Agung (UNISSULA), Semarang, Indonesia
- 3) Faculty of Economics, Universitas Islam Indonesia (UII), Yogyakarta, Indonesia
- 4) Human Governance Institute, INC., Kuala Lumpur, Malaysia